



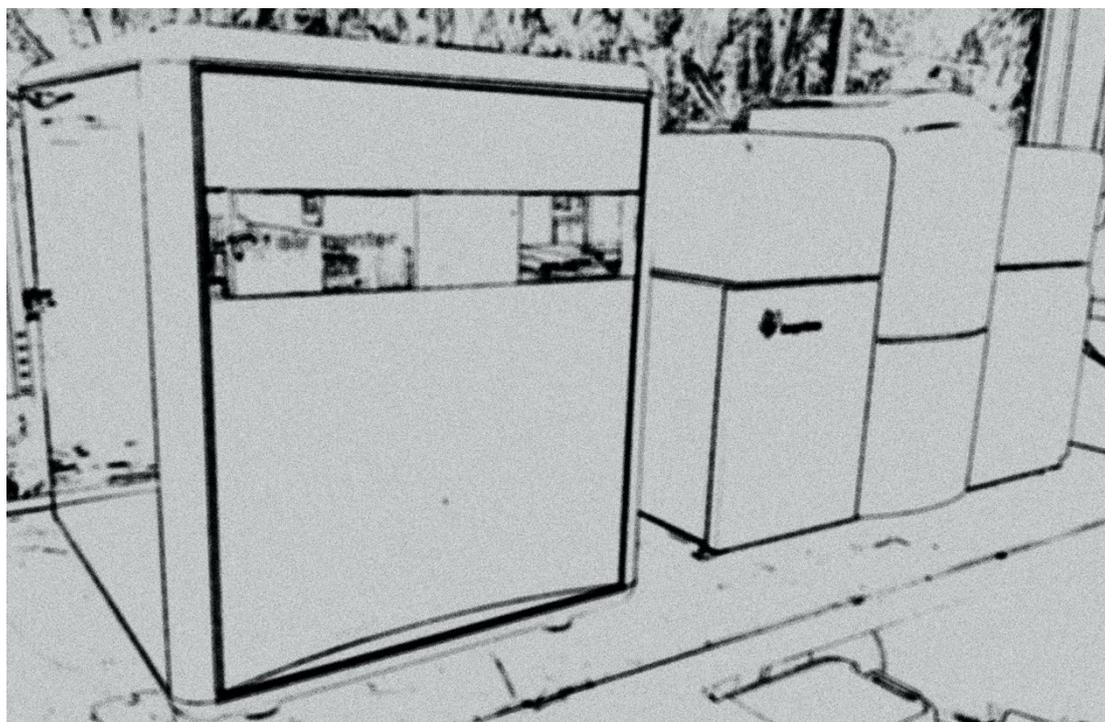
島根大学研究・学術情報本部総合科学研究支援センター

< センター通信 >

第 47 号

2024(令和 6)年 10 月発行

Interdisciplinary Center for Science Research, Shimane University



記事内容

◇	記事内容	1
◇	総合科学研究支援センター活動概要報告	
	遺伝子機能解析部門	2
	実験動物部門	4
	生体情報・RI 実験部門	8
	物質機能分析部門	11
◇	編集後記	15

<設備・機器の修理や新設>

部門 website に機器一覧、機器オンライン予約、お知らせ、申請書類ファイル、セミナー記録、技術講習会活動記録、ニュース、会議・講習会参加記などが掲載されています。最新情報は随時更新しています。ぜひご覧ください。 <http://shimane-u.org/index.htm>

機器のオンライン予約を行うためには、利用代表者のユーザーID およびパスワードが必要です。遺伝子機能解析部門事務までお問い合わせください。新たに予約オンライン化を希望される機器がございましたらご連絡ください。

共同利用機器が導入されました。元素分析計/安定同位体比質量分析計、マイクロプレートリーダー SH-9000Lab に分注機能追加、マイクロ天秤、フリーザー（松江市よりコロナワクチン保管庫譲受）。

中国地方バイオネットワーク受託サービスが行われています。中国5県の遺伝子関連施設が実施している受託サービスを利用することができます。中国地方バイオネットワーク連絡会議のHP がリニューアルされ URL も変更になりました。受託サービス詳細など、ぜひこちら (<https://chugoku-bionet.hiroshima-u.ac.jp/index.html>) をご覧下さい。本遺伝子機能解析部門は共焦点レーザー顕微鏡観察受託サービスを担当しています。

<行事>

利用説明会を開催しました。

令和6年4月17日（水） 「2024年度 遺伝子機能解析部門利用者説明会（第1回）」

教育訓練を開催しました。

令和6年5月16日（木） 「放射線業務従事者新規登録者教育訓練」

令和6年4月19日（金）～5月31日（金） 「放射線業務従事者再教育訓練」（オンデマンド）

<公開講演会開催>

令和6年2月19日（月）

島根大学総合科学研究支援センター公開講演会

（第273回 遺伝子機能解析部門セミナー）

「DNA メタバーコーディングでプランクトンの生物間相互作用を紐解く！」

仲村 康秀 氏（島根大学エスチュアリー研究センター）

<技術講習会開催>

第180回 2024年4月25日（木）

「マイクロプレートリーダー SH-9000Lab 分注機能 取扱説明会」

<セミナー開催>

令和6年2月19日（月）

第273回 遺伝子機能解析部門セミナー

（島根大学総合科学研究支援センター公開講演会）

「DNA メタバーコーディングでプランクトンの生物間相互作用を紐解く！」

仲村 康秀 氏（島根大学エスチュアリー研究センター）

<会議等参加>

令和6年2月26日（月）～3月1日（金）

第1種放射線取扱主任者講習参加 京都大学（蜂谷）

令和6年3月4日（月）

島根県原子力災害対応職員研究支援（山根）

<その他>

・論文

Kuzuhara T., Monden K., Hachiya T., Nakagawa T. (2024) Development of pENTR-NeCo-lacZ α vectors for the preparation of negative control constructs in Gateway cloning.

Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 88: 784–788. <https://doi.org/10.1093/bbb/zbae061>

Hachiya T., Makita N., Bach L., Gojon A., Nakagawa T., Sakakibara H. (2024) Genetic and transcriptomic dissection of nitrate-independent function of Arabidopsis NRT1.1/NPF6.3/CHL1 under high ammonium condition. *Soil Science and Plant Nutrition*, in press, <https://doi.org/10.1080/00380768.2024.2326086>

・ベクター開発・普及活動がNature誌にて紹介（中川）

The open-science movement for sharing laboratory materials gains momentum.

(<https://www.nature.com/articles/d41586-024-00172-y>)

・科研費新規採択

基盤研究（C）2024-2026 研究代表者：中川強

「植物孔辺細胞形成における極性の確立と形態構築制御機構の解明」

◇ 実験動物部門 ◇

<令和6年度実験動物慰霊祭>

開催日時：令和6年6月11日（火）14：00～15：00

場所：島根大学出雲キャンパス 動物慰霊碑前

令和6年6月11日に恒例の実験動物慰霊祭を開催いたしました。本年度は天気にも恵まれ、多くの研究者が参列いたしました。

動物実験の関係者を代表して、橋本実験動物部門長が動物実験に供された実験動物に対する感謝の誠を表しました。以下に橋本実験動物部門長による「慰霊の言葉」を掲載します。

慰霊の言葉

令和6年度島根大学実験動物慰霊祭にあたり、慰霊の言葉を述べさせていただきます。

人類の生活の質の向上のためには生命科学研究および医科学研究を発展させることが不可欠です。近年、Micro Physiological System (MPS) など新しい動物実験代替法が開発され利用が進んでいますが、それでもまだ動物実験を完全に行わずに研究は進められません。島根大学においても、人類の健康増進、疾患治療を目指した多くの研究が行われており、令和5年度も数多くの動物実験が行われました。具体的には、本学研究・学術情報本部総合科学研究支援センター実験動物部門の施設利用者数は、松江・出雲両キャンパス合わせて教職員、学生など、延べ11,340名に達し、この間に動物実験に供された動物は、マウス16,474匹、ラット1,453匹、ウサギ19羽、モルモット18匹を数えました。本学における医学および生命科学研究のために犠牲になった動物の諸霊に対して、ここに謹んで感謝の誠を捧げます。

生命科学研究あるいは医科学研究に携わる私たち研究者は、実験動物の御霊に報いるよう、信頼性の高い実験を行わなければなりません。そのためには、生命の尊厳を真剣に考え、実験動物の飼育環境や実験環境を適正に維持し、高い倫理観を持って日々努力することが強く求められます。こうした努力の成果を客観的に評価する目的で、本年度は、動物実験施設の運営状況を外部の先生に評価していただく外部検証を受けることとしています。前回の外部検証は平成27年度、2015年なので9年ぶりとなり、その間に遵守すべき法令やガイドラインは改正されて要求事項はずいぶん厳しくなりました。本学の動物実験施設は改修工事を行いハードの改善を図ってはきましたが、施設の基本設計が古いため構造的な不具合は完全には解消できないままです。要求されるレベルを達成するためには

運用方法を工夫し、単にルールを守るだけでなく、施設利用者全員が協力し合ってより良い環境を維持できるよう、不断の努力が求められます。動物実験部門の人員不足や高齢化の影響もあり、研究者の負担も大きいところですが、島根大学の研究が他の研究機関に負けないように、そして犠牲になった実験動物の御霊に報いるためにも、関係者が一致団結して素晴らしい研究成果を出し続けていく所存です。

しかし、残念なことに昨年度は不適切な動物実験および実験動物の飼育管理が相次いで発覚しました。不適切な動物実験としては、動物実験計画書の承認がないまま留学生に実験を行うよう指示された事例がありました。この事例では、承認されていない動物実験を行おうとしたことと、実験実施者が動物実験計画書の内容を知らないまま実験に携わっているという、2つの大きな問題が表面化しました。研究者は承認された動物実験計画書の内容を知らないまま動物実験を行うことは厳に慎まなければなりません。また、生きたままのマウスが動物飼育室から洗浄場に搬出される不適切な動物の飼育管理の事案が発生しました。特に遺伝子改変動物が搬出された事案もあり、カルタヘナ条約の違反事例となっていました。万一、施設外にまで逃げ出すようなことがあれば重大な法令違反となります。そうなれば本学の動物実験に対する信頼性は著しく損なわれ、多くの実験動物の命を犠牲にした貴重な研究成果を毀損する事態になりかねません。動物実験を行う研究者とそれを支える施設職員の一人一人が、今一度、心を新たにして、生命の尊厳を真剣に考え、実験動物の飼育環境と実験環境を適正に維持し、高い倫理観を持って日々努力しなくてはなりません。本学の動物実験関係者の全員が、今後このような不適切な事案が発生しないよう肝に銘じて研究業務に励むことを、施設を代表してここにお誓いいたします。

最後に、繰り返しとなりますが、犠牲となった尊い動物たちの御霊に対して、改めて心から感謝と追悼の誠を表すとともに、実験動物の福利並びに倫理基準にのっとり、研究者自らの良心に基づいて、医学および生命科学研究のために必要最小限の動物数で、最大限の効率を生む実験系の確立と推進に努力していくことをお誓いし、慰霊の言葉とさせていただきます。

令和6年6月11日

島根大学 研究・学術情報本部
総合科学研究支援センター実験動物部門

部門長 橋本 龍樹

令和6年度 実験動物慰霊祭
令和6年6月11日



多くの動物実験実施者が参列して実験動物に感謝の意を示すとともに、適切な動物実験の実施を誓いました。



<外部検証に向けて>

本学は令和6年度に動物実験施設の運営について第三者機関（文科省推奨：実験動物学会の外部検証事業）による外部検証を受ける予定で、日程が令和6年11月25、26日に決まりました。外部検証では、動物実験施設の運営体制が整い適切に運営されているか、研究者や飼養者が3Rsの原則（Replacement, Reduction, Refinement）や規則類に則って適切に飼育や実験を行っているか、施設の構造や運営管理が適切か、施設運営や動物飼育・動物実験において適切に記録が残されているか、また自己点検が適切に行われ、毎年施設運営の改善が行われているか、などについて調査されます。調査の方法として、書類の調査とともに、施設の視察による現場の状況確認等により動物実験計画承認申請書との整合性の確認も実施されます。しっかりと準備を行い対応したいと考えています。

<特別講習>

動物慰霊祭において橋本部門長の「慰霊の言葉」にもありましたが、昨年度は実験動物の飼養に問題がある事例が認められました。これに対し、動物実験委員長・実施機関の長（代理の理事）から、適切な実施のための研修を行うことが指示され、年末から3月の年度末にかけて出雲キャンパスの全動物実験実施者を対象とした特別研修を実施しました。法令や指針の改正で求められる内容が厳しくなっていること、世論が動物実験に対して厳しい視線を持っていること、更に他学の事例などから不祥事があった場合の研究への影響の大きさについて理解を深めました。また、動物の飼養や使用に関する手順について周知徹底しました。

<その他動物施設の運営に関する連絡>

① 飼育関連費用

ここ数年の物価上昇などの影響により、利用者の方々には負担が大きくなるお願いを何度も繰り返してきました。しかし、実験動物部門の業務を見直しを含め運営費用をできる範囲で最小化するように努力して、本年度は飼育関連費用の値上げを行わずに運営したいと考えています。

動物実験施設を適切に運営するためには、研究者の協力が欠かせません。最小限の費用で最大限の研究成果につながるよう、今後ともご協力をよろしく申し上げます。

② 実験動物（マウス、ラット）の購入

日本クレア、日本エスエルシー、ジャクソンラボラトリーズジャパンの市販系統：実験動物の購入申込書は、入荷希望日の1週間前までに提出してください（購買申込用紙は最新のものをご使用ください）。承認された動物種・系統および購入総数から逸脱がないようにお願いします。

上記以外の実験動物：導入に際して、実験動物部門でSPFエリアは4週間、コンベエリアは1週間の導入検疫を行います。実験に使用できるまでに時間を要しますので、導入検疫の期間を考慮の上動物実験計画を作成願います。なお、SPFエリアでは、入荷後1週間を経過したら繁殖は可能です。発注前に実験動物部門と相談し、入荷日について了解を取るようお願いします。

③ 飼育ケージラベル

各飼育ケージには、所定の情報が記載された飼育ラベルを掲示してください。繁殖動物については、専用のラベルの掲示もお願いします。動物数は増減の都度、正しく変更してください。利用者向けのSharePointに台紙の様式を入れてありますので、必要事項を入力の上印刷して使用していただくことも可能です。

④ 飼育匹数の確認と健康観察

飼育管理表に正しく動物数を記載し、健康観察の記録をお願いします。飼育管理表の動物数と飼育ケージラベルに記載された飼育匹数の合計が一致するように、間違いのない記載をしてください。飼育匹数のデータは飼料・飼育管理料請求額の算出根拠となります。また、文部科学省や環境省への報告する情報の元データとなります。

なお、特別講習で案内した通り、遺伝子改変動物は個体管理が必要になります。適切に記録を行ってください。

◇ 生体情報・RI 実験部門 ◇

<令和6年 1月～令和6年 6月 行事報告>

- 1月25日 第58回生体情報・RI 実験部門 運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:15
- 3月19日 第59回生体情報・RI 実験部門 運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:10
- 5月14日 部門説明会（オリエンテーション）
生体情報・RI 実験部門全体の施設見学
時 間：14:00～15:00
- 5月15日 部門説明会（オリエンテーション）
生体情報・RI 実験部門全体の施設見学
時 間：14:00～15:00
- 5月28日 放射線業務従事者の教育訓練（新規登録）
場所：RI 研究棟1階 実験室（1）
時 間：14:30～17:00
- 5月29日 第60回生体情報・RI 実験部門 運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:15

<令和6年 7月以降 行事予定>

- 7月25日 第61回生体情報・RI 実験部門運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:15
- 9月26日 第62回生体情報・RI 実験部門運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:15
- 10月17日 放射線業務従事者の登録更新教育訓練
Web 講習
時 間：15:00～16:00
- 10月22日 放射線業務従事者の登録更新教育訓練
時 間：17:30～18:30
- 11月27日 第63回生体情報・RI 実験部門運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～

<令和5年度 島根県防災業務関係者研修 参加報告>

島根県の原子力災害対応研修のために、甲高彩華、吉川光寛が講師として参加してきました。

月 日：令和6年2月14日、15日

主 催：公益財団法人原子力安全技術センター

場 所：島根県民会館（松江市・14日）、石中央文化ホール（浜田市・15日）

内 容：講義：放射線防護のために必要な基礎知識、住民防護活動の概要と防護措置

実習：放射線測定器等の取扱実習

講師：甲高彩華、吉川光寛

<令和5年度 島根県原子力災害対応職員研修（避難退域時検査等） 参加報告>

島根県の原子力災害対応訓練のために、堺弘道、吉川光寛が講師として参加してきました。

月 日：令和6年3月4日

主 催：公益財団法人原子力安全技術センター

場 所：島根県立浜山公園（出雲市）

内 容：原子力災害時の住民避難の実地演習

講師：堺弘道、吉川光寛

<第一種作業環境測定士 登録講習（有機溶剤） 受講報告>

第1種有機溶剤と第2種有機溶剤に指定されている有機溶剤を使う業務を行う指定作業場は、労働安全衛生法により作業環境測定士による定期的な測定が義務づけられています。今回、甲高彩華が資格取得のため、講習会に参加しました。

「作業環境測定士 実技基礎講習C」、「第一種作業環境測定士 登録講習（有機溶剤）」

月 日：令和6年3月4～6日

場 所：公益社団法人関西労働衛生技術センター（大阪市）

受講者：甲高彩華

<第二種作業環境測定士 登録講習 受講報告>

指定作業場における作業環境測定の際のデザイン、サンプリング、および簡易測定器による分析業務を実施するためには、第二種作業環境測定士の資格が必要です。今回、吉川光寛が資格取得のため、講習会に参加しました。

「作業環境測定士 実技基礎講習A」、「第二種作業環境測定士 登録講習」

月 日：令和6年2月26～29日

場 所：公益社団法人関西労働衛生技術センター（大阪市）

受講者：吉川光寛

<生体情報・RI 実験部門運営懇談会>

生体情報・RI 実験部門運営懇談会（1年間に6回開催）は第63回を11月27日に開催する予定です。後日、議事要旨を生体情報・RI 実験部門に使用登録されている方へ配信します。

第62回までの議事要旨をご覧になりたい方は、生体情報・RI 実験部門の問い合わせ先（メールアドレス：seitairi@med.shimane-u.ac.jp）へお申し込み下さい。議事要旨の電子ファイル（Word 文書ファイル）をメール添付でお送りします。

<生体情報・RI 実験部門の設備・機器を利用される方へ>

当部門の設備・機器を利用される方には、年度初めに分野毎に利用者登録をお願いしています。利用者登録に必要な申請用紙は、部門ウェブサイト上生体情報・RI 実験部門 HP (<https://www.med.shimane-u.ac.jp/CRLHP/index.html>) に電子ファイル (Word 文書、pdf ファイル) として用意されています。該当する分野の利用申請用紙を HP 上の「各種申請書ダウンロード」よりダウンロードして必要事項を記入の上、各分野の担当者へ印刷紙でご提出下さい。

高速超遠心機や高圧滅菌装置など一部の実験機器においては、初めて利用する方には必ず分野内の担当職員から操作方法の指導を受けていただくようにルールが定められています。

危険防止と快適な実験室環境を保つために、実験機器の取り扱い上の注意事項を遵守して、安全な取り扱いに十分留意していただくようにお願いします。

また、使用済みの溶液などは放置せず必ず持ち帰って下さい。特に毒物・劇物に指定されている化学物質の使用に際しては、安全管理のために定められたルールに従って取り扱うようにご注意ください。

機器を利用する際には、必ず各機器指定の使用簿に必要な事項を記入して下さい。一部の機器においては利用料金の負担をお願いしています。利用料金は四半期毎に各分野別に集計し、利用者の所属する講座等へ会計課を通して共通経費執行済額通知書が送られますので、講座等の経費からお支払いいただきます。

<共同利用機器の制御用パソコンを安全に使用するために>

部門に整備されている機器の多くには制御用パソコンが備えられています。機器を操作するためのパソコンでは、機器の操作に必要なプログラム以外は絶対に実行しないようお願いします。測定機器のメンテナンス、解析ツールの更新、パソコンの機能追加・変更などが必要な場合は、必ず担当職員にお問い合わせ下さい。

測定機器のパソコン HD に保存された計測データファイルの持ち出しに、USB フラッシュメモリ等の取り外し可能な外部記憶装置を使用する場合は、前もって利用者の責任において必ずウイルス検知・駆除ツールを用いて、安全性が確認された記憶装置をお使い下さい。

パソコンの動作がおかしい? と思われた場合は、できる限り現状を保存して、担当職員へお知らせいただくようお願いします。

<オンラインによる機器予約システムについて>

生体情報・RI 実験部門に設置されている多くの機器は共同でご利用いただくため、一部の機器に関しては予約のための「オンライン機器予約システム (<https://www.med.shimane-u.ac.jp/CRLHP/reservation.html>)」を導入しています。予約システムにて予約必要な機器の確認をお願いします。なお、「オンライン機器予約システム」へのログインにはユーザーID とパスワードの入力が必要です。登録に関しては、原技術職員 (内線 3061) まで問い合わせ下さい。また、退職等により予約システムの使用が不必要となる場合もご連絡ください。登録を解除します。

<部門運営等に関する問い合わせ窓口>

- ① 【松本健一】 e-mail : matumoto@med.shimane-u.ac.jp
電話 : 0853-20-2248 (内線 : 2248)
- ② 【塚弘道】 e-mail : hisakai@med.shimane-u.ac.jp
電話 : 0853-20-2524 (内線 : 2524)

お気軽にお問い合わせください。

◇ 物質機能分析部門 ◇

【お知らせ】

1. 液体窒素の安全な運搬について
2. 松江キャンパス「寒剤（液体窒素，液体ヘリウム）の安全な取り扱い方」講習会のご案内
3. 『走査型電子顕微鏡と X 線回折装置の利用講習会』のご案内

1. 液体窒素の安全な運搬について

すでに学内メールでもお知らせしておりますが、液体窒素の運搬について「学生が 1 人だけで重そうな寒剤容器を運搬する場面を度々見掛けており、液体窒素を被液する危険があり対応が必要である。」との指摘を受けました。液体窒素利用者の皆様には従前より液体窒素の運搬に細心の注意を払って安全に行うようお願いしているところですが、今一度徹底していただきますようお願い致します。利用者の方はトピックスの 2. でお知らせしております、「寒剤（液体窒素，液体ヘリウム）の安全な取り扱い方」講習会を必ず受けてからご利用いただくこととなっております。オンデマンド形式ですので、すでに受講された方に復習していただくことも可能です。どうぞよろしくお願い致します。また、ご通行の皆様には問題を感じる場面に遭遇した場合には当部門までご一報をいただけますと喜びます。

また、利用者の皆様に安全に運搬を行っていただくために、この機会に寒剤容器の固定が可能な運搬用貸出カート（大小 2 台）を用意しました。状況に応じてご利用いただき、安全の確保に努めるようお願い致します。



液体窒素容器運搬用貸出カート（大）



（小）

本件に関する連絡先

西郡 至誠：(内線 6116) shijo@riko.shimane-u.ac.jp

2. 松江キャンパス「寒剤（液体窒素，液体ヘリウム）の安全な取り扱い方」講習会のご案内

当部門は低温実験環境の維持・管理を一つの大きな業務としており、液体窒素などの寒剤を扱う教員・大学院生・学部学生等の皆様を対象として「寒剤の安全な取り扱い方」講習会を実施しております。

寒剤は製造や貯蔵等を法律で規制されている高圧ガスであり、扱い方を誤れば重大事故が発生する危険な物質です。寒剤による事故を防止するには、日頃寒剤を扱う方々に、正しい知識による十分な注意をお願いするしかありません。すでに5月初旬にご案内致しましたので、すでに受講された方も多いと思いますが、Moodleを使用したオンデマンドの講習会にて実施中です。開講期間は限定しませんので、本学で研究を行っている教職員・学生の方で、新規に寒剤（液体窒素・液体ヘリウム）を取り扱う必要が生じた時点で随時、受講していただければと考えています。

島根大学 Moodle（2024年度版）

コース名： 松江キャンパス「寒剤（液体窒素・ヘリウム）の安全な取り扱い方」講習

URL： https://moodle.cerd.shimane-u.ac.jp/moodle_2024/course/view.php?id=1476

登録キー： kanzai2024

対 象： 本学で初めて寒剤を扱う教員・大学院生・学部学生他

内 容： 計40分のビデオ教材（9～16分のもの3編）

上記URLに直接アクセスしていただき、求めに応じて、皆様のID、パスワード、講習の登録キーを入力していただければ受講できるようになっております。ご指導の学生の方等に必要に応じてご案内いただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

3. 『走査型電子顕微鏡とX線回折装置の利用講習会』のご案内

以前は走査型電子顕微鏡とX線回折装置の利用講習会をそれぞれ年一回実施していましたが、一斉講習は「予定が合わない」、「利用開始時期と乖離する」などの不便な点がありましたので、現在は依頼を受けて講習を行うようにしています。個別講習の依頼は常時受付しています。個別の講習を希望される方は遠慮なくご連絡ください。

紹介を兼ねて装置の概要を掲載しておきます。講習とは関係ないお問い合わせも歓迎しております。どんな用途に使えるかなど、興味がある方は電話やメールなどでお問い合わせください。できるかぎり具体的にお答えいたします。

走査型電子顕微鏡 日本電子 JSM-7001FA

(設置場所：総合理工大学院棟 1 階 106 室)

高分解能観察を可能にするフィールドエミッション型の電子銃を備えた走査型電子顕微鏡です。主に金属などの導体試料向けですが、コーティングなどの処置を施すことにより不導体や半導体試料の観察も可能です。ただし、試料は高真空でガス等を放出しないものに限ります。操作の難易度は卓上走査型電子顕微鏡よりも高くなりますが、卓上電子顕微鏡では難しい高分解能観察や様々な像モードでの観察ができます。二次電子検出器以外に、反射電子検出器と透過電子検出器を備えます。

X 線回折装置 SmartLab

(設置場所：総合理工学部 3 号館 1 階 122 室)

ヨハンソン型モノクロメーターと 1 次元型高速検出器により $\text{Cu-K}\alpha 1$ 単色の高分解能測定が可能で、主に粉末試料の定性・定量解析に用います。バルク試料もある程度の面積があれば測定可能です。 $\text{K}\alpha 2$ 除去が不要となるため複雑な構造や複相材料でピーク位置が近いときに特に有用です。さらに温度可変試験も可能です。ただし、試料の反応性が測定温度域で十分低いことなど多くの制限がありますのでまずはお問い合わせください。

X 線回折装置 Rint Rapid II

(設置場所：総合理工学部 3 号館 1 階 122 室)

大面積のイメージングプレートにより広範囲の回折情報を一回の撮影で取得できます。小径コリメーターを用いれば微小領域を指定して測定可能です。ただし、単結晶を用いた高精度構造解析はできません。ミリメートルオーダーで場所を指定しながら回折情報を取得できる点が最大の特徴となります。例えば、試料のある部分をカメラで指定しながら回折図形を取得できます。また大面積の二次元検出器を用いることから、照射範囲に数個以下の結晶粒しかない場合でも測定ができます。

講習や各装置に関するお問い合わせは下記の連絡先（林）までお気軽にお問い合わせください。

電話：0852-32-6122（内線 3060）

email：thayashi@riko.shimane-u.ac.jp

【行事報告】

<令和6年8月～令和6年10月 行事報告>

・会議等参加

令和6年度 国立大学法人機器・分析センター協議会

日時：令和6年10月11日（金） 10：00～17：00

場所：新潟大学 旭町キャンパス 医療人育成センター 4階 ホール

（オンライン対応のハイブリッド開催）

プログラム

10:00～11:30 総会

12:30～14:30 技術職員会議

テーマ：「技術職員の仕事とは ～可能性と限界～」

14:45～17:00 シンポジウム

テーマ：「2025 年末までに我々がなすべきこと ～このままだと大学の教育研究が危ない～」

※詳細は改めて次号のセンター通信でお知らせします。

＜ 島根大学研究・学術情報本部総合科学研究支援センター ＞
センター通信 第 47 号（2024 年 10 月）

◇ 編集後記 ◇

総合科学研究支援センター広報誌「センター通信」第 47 号を発行しました。
センター通信を通じて、有意義な情報発信ができるよう努めたいと思います。
誌面の充実のために、学内の技術や装置の紹介など、幅広い範囲の話題を募集して
います。掲載をご希望の方は、下記の編集担当までお問い合わせください。
「センター通信」の編集には多くの方々のご協力をいただきました。
ここに厚く御礼申し上げます。

2024 年 10 月

編集担当: 蜂谷 卓士

総合科学研究支援センター 遺伝子機能解析部門

問い合わせ先メールアドレス: takushi.hachiya@life.shimane-u.ac.jp